

# いしかわ気候変動適応センター通信 第8号

## 石川県が開発した気候変動に適応する農作物をご紹介

近年、高温により農産物や水産物などの生育障害や品質低下など、農林水産業の生産への影響が報告されています。水稻では、夏期の高温によって、米の白未熟粒（米が白く濁り、見栄えが悪い粒）等が発生しやすくなり、品質や収量への影響が懸念されています。



整粒(正常な粒)と白未熟粒の比較

石川県では、新たな水稻品種の開発においては、高温対策も重要な要素の1つと考えており、品質低下を招く夏期の高温を回避する晩生品種の「ひやくまん穀」を開発しました。

## <ひやくまん穀の特徴>



ひやくまん穀は、「大粒が自慢」の品種です。



コシヒカリ 22.5g/千粒  
ひやくまん穀 26.1g/千粒

「ひやくまん穀」は主要品種の「コシヒカリ」よりも穂が出る時期が遅く、比較的涼しい時期に実るため、高温の悪影響を受けにくい品種です。

### 「ひやくまん穀」の特徴

- 大粒で食べごたえあり
- 冷めても美味しい
- ゆっくり育つ晩生品種

石川県では引き続き、気候変動に適応する農作物の開発と普及に取り組み、県内の農林水産業の持続的な発展を図ってまいります。

### <石川県気候変動適応センター>

事務局：石川県生活環境部温暖化・里山対策室

電話番号：076-225-1462 メールアドレス：ontai@pref.ishikawa.lg.jp

URL：https://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/tekiou/